

2018年3月28日

各位

会社名 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
(コード番号8267 東証第一部)
問合せ先 執行役 環境・社会貢献・PR・IR担当 三宅 香
(電話番号 043-212-6042)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社の最近の業績動向を踏まえ、2017年10月4日に公表した2018年2月期(2017年3月1日～2018年2月28日)の連結業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 2018年2月期の連結業績予想の修正 (2017年3月1日～2018年2月28日)

単位:百万円

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前回発表予想(A)	8,300,000	200,000	200,000	15,000
今回修正予想(B)	8,370,000	210,000	213,000	21,000
増減額(B-A)	70,000	10,000	13,000	6,000
増減率	0.8%	5.0%	6.5%	40.0%
前期比増減額	159,855	25,261	25,649	9,745
前期比増減率	1.9%	13.7%	13.7%	86.6%

前期実績(2017年2月期)	8,210,145	184,739	187,351	11,255
----------------	-----------	---------	---------	--------

2. 連結業績予想修正の理由

当社は2018年2月期を初年度とするイオングループ中期経営計画において、既存事業の収益構造改革に重点的に取り組んでおります。

営業収益につきましては、GMS(総合スーパー)事業、SM(スーパーマーケット)事業、国際事業の売上トレンドが改善したこと等により増収幅が拡大しました。

営業利益につきましては、イオンリテール株式会社を中心としたGMS事業において、荒利益率の改善と経費構造改革の継続的な取り組みにより当初の想定を大きく上回りました。SM事業においては、第2四半期累計期間までの業績を踏まえて荒利益率の改善と経費削減を推進したことにより第4四半期には増益へ転じました。国際事業においては、中国、マレーシアにおいて既存店に経営資源を注力したことにより売上及び荒利益率が改善したことに加え、ベトナムでも現地のお客さまニーズに対応した商品展開が奏功したこと等により増益幅が拡大しました。

経常利益につきましては、営業利益の上振れに加えて営業外損益が想定を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記理由による営業利益及び経常利益の上振れを主たる理由として想定を上回りました。

以上

* 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。